（C）日刊スポーツ新聞社

2014年（平成26年）10月24日 金曜日（先負） 8版
日刊スポーツ NIKKAN SPORTS

文武両道右腕「すごく高い評価」2位

ニッカン

京大田中M1ホテ

「ノーベル賞の間」で史上初ドラフト会見

内定猶予

京大の合格発表よりもドキドキした。田中は、午後5時のドラフト会議開始から1時間1分で名前を呼ばれた。"すごくほっとしています。"ドラフトの5分前からすごく緊張した。本当に指名があるだろうかと。京大の（合格発表の）時は一瞬確認するだけ。待つ時間が長くて疲れました」。

ロッテから2位指名。同席した宝槌監督（57）は「まさか2位とは思わなかった」と仰天した。田中も「すごく高い評価で感謝しています。伊東監督は捕手としてインサイドワークなどで活躍された。そういう監督のもとでレベルを上げたい」と意気込んだ。

会見場は、同大のノーベル賞候補が受賞会見で準備するホールだった。そんな「ノーベル賞の間」で晴れ舞台を迎えて「ノーベル賞はすごい賞。僕はそこに並べられるようなものじゃないけど、新たな道で頑張っていきたい」と恐縮した。

文武両道のスーパー学生。しかし野球は無名の存在だった。「中学の時点で、進学校に入った。練習時間はなくなっていった。プロの夢はなくなって」。しかし京大で急成長し、8月に阪神2軍と対戦してプロ入りの決断をした。すでに三井物産から内定をもらっていたが、会社側からドラフトの結果が出るまで猶予をもらっていた。田中は「この時期まで迷う僕に、選択肢を残してくれた。ありがとうございますと言いたいです」。

いわゆるプロ野球選手が歩む道をほぼ経験していない。対戦したい選手を聞かれて「全然考えてなくて…」と戸惑った。同世代の選手ともほとんど接点がない。「僕がこれから成功すれば、いろんな人の励みになる。使命感、責任感を持ってやりたい。プロでどれくらい自分が通用するか、見極めたい。プロで長く活躍できる選手になりたい」。卒論テーマを聞かれて、立て板に水の口調で説明したが、これからは白球が商売道具。白衣を脱いで、マウンド一筋にかける。【益田一弘】

実験後に見学

注：初のプロ野球選手誕生に京大も沸いた。山極（やまぎわ）学長は「野性的で才気あふれる学生の育成を目指している京都大学にとって、大変喜ばしく、心からお祝い申し上げます」とコメント。会見場には約100人の学生が集結。田中と同じ工学部3年生の米川直輝さんは「今日は有機化学の実験をしてから見に来ました」。農学部3年生の杉浦春香さんは「2位ってすご～い。阪神ファンですけど、ロッテと対戦したら、ロッテを応援するしかないですね」と声を弾ませた。

ソフトバンク小林球団統括本部副本部長（東大から91年ドラフトでロッテ入り）「京大出身という注目を本人は重荷に感じると思うが、それを含めて楽しんでやってほしい。こういう選手がいてこそプロ野球。ひよる必要はありません」

ロッテからドラフト2位指名され、笑顔で会見する京大・田中（撮影・加藤哉）丸写真は指名されチームメートから胴上げされる田中

iPS山中教授

創部116年

京大初のプロ野球選手が誕生する。149㌢、右腕の田中英祐（4年＝白陵）が、ロッテから2位で指名された。京大吉田キャンパスで会見し「これで新たな1歩を踏み出せる」と笑顔。12年の医学・生理学賞の山中伸弥京大教授（52）ら数々のノーベル賞受賞者を生んだ最高学府では1898年（明31）の野球部創部から117年目の快挙になる。工学部で勉学に励んできた22歳が一流商社の内定を辞退し、プロの世界に飛び込む。

◆国立大

出身プロ 田中が京大では史上初の指名。国立大選手のドラフト指名（育成を除く）は08年坪井俊樹（筑波大＝ロッテ4位）以来、6年ぶり9人目。2位以内の高評価は96年オリックス1位の杉本友（筑波大）以来になる。

田中一問一答

―セールスポイントは

田中 腕を振って、打者に向かっていくこと。ロッテはファンの方が熱いと思っていた。ファンに応援されるようになりたい。

―卒論テーマは

田中 「SFA（Surface Forces Apparatus 表面力測定装置）における水和構造の逆計算理論」です。こういう現象はこういう理由で起こっているというような。分析化学で、主に理論です。数学、物理は国語よりも得意でした。

―野球に役立つか

田中 卒論などでうまく時間を使おうとしていたのは上の世界にも通じる。

―1年目の目標は

田中 具体的に自分のどこが通用するか、通用しないか、分かっていない。1年目で1つでも多く1軍で投球できるようにしたい。

対戦したい相手には困惑も
卒論はスラスラ「SFAにおける水和構造の逆計算理論」。こういう現象はこういう理由で起こっているというような。分析化学で、主に理論です
―国語より数学や物理が得意

史上最多8勝

田中（たなか） 英祐（えいすけ）

◆生まれ 1992年（平4）4月2日、兵庫県高砂市。

◆球歴 米田西小4年から「塩市少年野球団」で野球を始め、三塁手、捕手、外野手。白陵中から投手に転向した。白陵では1年秋からエース。2年夏は兵庫大会3回戦に進出。

◆京大では 現役で入学。1年春から関西学生野球リーグ戦に登板。全8季で65試合、350回⅓イニングを投げ、京大史上最多8勝（31敗）をマーク。4年間で防御率2・25を残した。全8季を通じて登板し、文武両道を貫いたことで、今秋リーグ戦閉会式で連盟から特別功労賞を贈られた。

◆研究室に感謝 工学部4年生は午前10時から午後5時まで研究室にいる必要がある。午後3時からの練習にいけるように願い出て、教授からの了承を得た。「理解していただいたので、野球を続けられた」。

◆サイズ 180㌢、75㌔。右投げ右打ち。

新治 伸治（投）東大→大洋 64年
（小石川）試88勝9敗6

井手 峻（投）東大→中日（外）66年
（新宿）試17勝1敗4

小林 至（投）東大→ロッテ 91年
（多摩）1軍出場なし

遠藤 良平（投）東大→日本ハム 99年
（筑波大付）試1勝0敗0

松家 卓弘（投）東大→横浜 04年
（高松）試14勝0敗1

西本 和美（内）筑波大→巨人（外）81年
（防府）試30本0塁.195

小林 昭則（投）筑波大→ロッテ 89年
（帝京）試27勝0敗2

杉本 友（投）筑波大→オリックス 96年
（県川越）試126勝12敗23

坪井 俊樹（投）筑波大→ロッテ 08年
（社）1軍出場なし

栗山 英樹（外）東学大→ヤクルト 83年
（創価）試494本7塁.279

三浦 翔太（投）岩手大→ソフトバンク 11年
（盛岡大付）1軍出場なし

神田 直輝（投）群馬大→巨人 09年
（前橋東）1軍出場なし

北川 智規（投）横浜国大→オリックス 00年
（県川越）試25勝1敗5

関口 雄大（外）滋賀大→横浜 07年
（宇都宮北）試7本0塁.100

【注】カッコ内は出身高校、年、順はドラフト指名順位は（ドラフト制以前の新治は大学4年時）、外はドラフト外、育は育成ドラフト。井手の外野手成績は359試合、1本塁打、打率1割8分8厘

M1位は早大・中村（2面）ジャイアウト沢野健太